



# Amazing Grace

April, 2011 Vol.8-1

## イースター(復活祭)

昨年、いやー昨年だったでしょうか、「千の風になって」という歌がよく歌われました。この歌に慰められた方もすくなくならずいらっしたことでしょう。

私はこの歌を聴いたとき、どこかで聞いた、一つの情景がうかびました。

「そこに私はいません 眠ってなんかいません」

聖書の中の、ある箇所です。イエス様は十字架の上でお亡くなりになり、お墓に納められました。弟子たちは愛するイエス様がお墓に納められ、どれほど嘆き悲しんだことでしょう。しかし、亡くなられた方は帰ってきません。二日後の朝早く、三人の女の人たちがイエス様のお墓に行きました。もう会えない悲しみをこらえながらお墓への道をたどったことでしょう。

悲しみの中、お墓に着いた彼女達が見たものは、驚くべきことでした。

お墓の前にいるべき、ローマの番兵がいません。

お墓の入り口をふさいでいる、大きな石がありません。

お墓の中に納められた、イエス様の遺体がありません。

そこに、神の使い、天使がいました。

そして、天使により驚くべきことが告げられるのです。「ここにはおられません・・・」と。

さらに天使は告げます。

「よみがえられたからです。・・・ですから、急いで行って、お弟子達にこのことを知らせなさい。イエスが死人の中からよみがえられたこと、(そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれ、あなたがたは、そこで、お会いできるということです。)(マタイによる福音書28章6, 7節)

イエス様は十字架の上で私たちの罪を背負い、その身代わりとして亡くなられました。私たちはイエス様のこの身代わりの死を信じる時、神の前に罪を許されます。

しかし、聖書はそれだけではないことを、私たちに語っています。

日曜日の朝、3人の女の人たちが見たものは、よみがえられたイエス様の納められていた空の墓でした。教会では日曜日の朝、礼拝をします。日曜日の朝、それはイエス様のよみがえりを覚えるためなのです。イエス様のよみがえりがなければ、イエス様の教えは死で終わります。クリスチャンは死んでしまったイエス様の教えを守り、死んでしまったイエス様を礼拝し、死んでしまったイエス様に祈るのではありません。よみがえったイエス様は今も生きておられます。

私たちに、いつの日か、命の終焉を迎える時が必ず訪れます。

しかし、イエス様を救い主と信じる時、その人はイエス様の十字架での身代わりの死ゆえに、神様に罪を許され、イエス様に続く者としてよみがえることが出来るのです。命の終焉は終わりではなく神とともにある、神の国(天国)への入り口と変わります。

「私のお墓の前で 泣かないでください そこに私はいません 眠ってなんかいません」

私はいません 眠ってなんかいません。そうです、神の国にいるのです。神の国で生きるのです。

「イースター」はイエス様のよみがえりを記念し、私たちもよみがえりの希望を持つ、特別の日です。

このすばらしい！よきおとずれを与えてくださった、イエス様に感謝します。

(T.Y)

### 定期集会のご案内

日本キリスト教会連合  
結城福音キリスト教会  
結城市大字結城603  
0296-33-4359

(日曜日)

教会学校 9:15-10:15  
礼拝式 10:30-11:45

(水曜日)

第一祈り会 10:00-12:00  
第二祈り会 19:30-20:30

祈り会では聖書をわかりやすく学んでいます。初心の方も歓迎します。

## 聖書豆知識

### ◎人生は「前奏曲」？何への「前奏曲」？

去年はショパンの生誕200年記念の年でしたが、今年はリストの生誕200年。世界中でさまざまなイベントが行われているようです。二人ともピアノの名手で、ショパンが「ピアノの詩人」とうたわれたのに対して、リストは「ピアノの魔術師」と呼ばれたとか。その呼び名にふさわしく、リストはとても手が大きかったそうです。ある新聞記事によれば、親指の長さが7cm、人差し指が11cm、中指が12cm、薬指が11cm、小指が8.8cmで、片手でドから高いソまで届いたといわれます。

そのようなリストですから、普通の手の持ち主では演奏が困難のようなピアノ曲をたくさん作曲しています。「超絶技巧練習曲」なんて、もう、名前で圧倒されそうですね。そういう訳で、リストというとすぐピアノ作品を思い浮かべてしまうのですが、実は彼は「交響詩」という新しい音楽ジャンルの創始者でもあるのです。彼は10曲以上の交響詩を作曲しているのですが、その代表作は「前奏曲」でしょうか。これはリストが、フランス象徴派の詩人ラ・マルティーヌの詩のなかの、「人生は死に至る一連の前奏曲に過ぎない」ということばに触発されて作曲したものだといわれます。

ところで、ラ・マルティーヌの言うように、人生は死の前奏曲にすぎないのでしょうか。二年ほど前になるでしょうか。「千の風になって」という歌がヒットしましたね。メロディーのよさもさることながら、その歌詞が多くの人の心をつかんだからではないでしょうか。

“わたしのお墓の前で泣かないでください。

そこにわたしはいません。眠ってなんかいません。

千の風に、千の風になって、今、大きな空を吹き渡っています。”

人生は死ですべてが終わってしまうのか。いや、そんなはずはない。そうであってほしくはない。死を超えたいのちがないものだろうか。歌詞の根底を流れる、そのような、人間の心の底深くにある願いが多くの人の共感を呼んだのではないのでしょうか。

そう、人生は死ですべてが終わってしまうものではありません。人生は単なる「死に至る前奏曲」なのではありません。そうではなくて、「新しいいのち」への前奏曲となり得るものなのです。

今から約2000年前、当時のユダヤの首都エルサレムの近くでそのことを保証する出来事が起こりました。十字架にかけられ死をとげたイエス・キリストが死から復活したのです。墓に行って嘆き悲しもうとしていた女たちが見たのは、空になった墓でした。彼女たちが聞いたのは「彼はよみがえった。彼はここにはいない」という天使の明確な宣言でした。さらに、彼女たちが出会ったのは「復活のイエス・キリスト」でした。

人生は死で終わりなのではない。それを超える「いのち」「復活のいのち」「永遠のいのち」があるのだ—そのことをイエス・キリストの復活は力強く語り続けているのです。そのキリストを信じるとき、その人にもこの「いのち」の希望が現実のものになるのです。そのとき、人生は死の前奏曲ではなく、新しいいのち、満ち溢れるいのちへの前奏曲になるのです。ところで、あなたの人生は何への前奏曲ですか？

※このイエス・キリストの復活を祝うイベントが「イースター」(復活節)です。今年4月24日です。結城福音キリスト教会のイースター記念礼拝に参加しませんか。だれでも大歓迎です。いっしょにイエス・キリストの復活を喜びましょう！ (K.K)

**結城福音キリスト教会2011イースター記念野外礼拝**

**日時：4月24日(日)10時30分~12時**

**場所：秋葉庭園**

**礼拝の後、楽しいエッグハンティングや美味しい  
昼食タイムも！**

